

《沖縄協同病院の理念》

- 人権といのちの尊厳を守る、無差別平等の医療を行います。
- 地域と共に平和で健康に暮らせる、まちづくりを行います。

# はいさい

《沖縄協同病院医師研修理念》

- 基本的診療能力を身につけることを第一の目標とし、患者を「一人の人間」として捉え、「患者の幸せ」を追求できる医師を養成します。

## 令和5年度

### 献血功労者表彰式にて感謝状を受領しました

組合員のみなさん、こんにちは。

沖縄協同病院はこの度、献血運動の推進協力団体として、令和5年度献血功労者表彰式にて感謝状を受領しました。本表彰式は、献血運動の推進に積極的な協力をした個人または団体に対し、厚生労働大臣からの感謝状を沖縄県知事及び日本赤十字社沖縄県支部長より贈呈されるものです。今年度は7団体に感謝状が贈られ、当院もその1団体に選ばれました。

当院は現在的那覇市に移転する前、現とよみ生協病院(豊見城市)で医療活動を行っているときから、職員へ呼びかけをし献血運動に協力をしてきました。約30年という長期にわたる活動が高く評価され、社会へ貢献できたことをとてもうれしく思います。

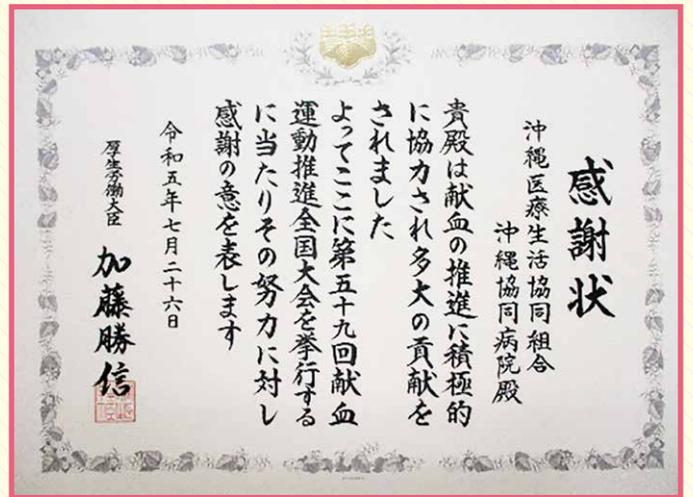
病院としては、医療活動を行う上で輸血がいろいろな場面で必要となります。職員としては自分たちの医療活動のためにも献血に協力していくべきとの考えから、病院の敷地内に献血車にきてもらい、毎回25名を目標に献血活動を行っています。去った9月11日にも献血活動を行い、伊泊院長を含め26名の職員の協力を得ました。

今後も、社会への貢献として、また輸血を使用する病院として献血活動に協力していく所存です。

事務管理部 次長 入月 美保子



右から3人目 伊泊院長



#### 《お礼》

ICU・6階病棟の職員の皆さんの明るく親切で優しい笑顔。丁寧に細かい所まで気づかいていただいたおかげで楽しい入院生活を送り今日に至りました。本当にありがとうございました。皆さんのご健康とご多幸を心からお祈りしております。

with love ○○より

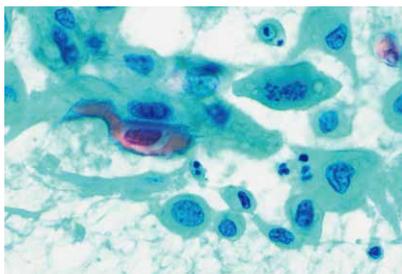
### 病院の活動状況 <2023年8月度>

- ・外来一日平均患者数：277人 (前年同月比 -37人)
- ・入院一日平均患者数：259人 (前年同月比 +26人)
- ・組合員利用分量(率)：52.8% (前年同月比 +3.6%)

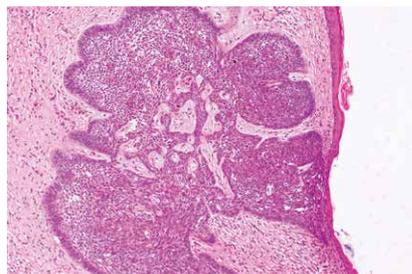
## 「病気」の正体をミクロの目で追及する

いしぎ聖子

### 200 病理診断科より



沖縄県で多いがん 子宮頸部の扁平上皮癌の細胞像



沖縄県で多いがん 皮膚の基底細胞癌の組織像



病理診断科では病理医が顕微鏡で病気の最終診断をしています。特にがんの診断には病理検査が不可欠です。プレパラートというガラスを顕微鏡にのせて診断しますが、がんのタンパク質に対する抗体なども使用して、病気ががんかどうか、がんであればどんな種類のがんなのか、その正体を究明します。がんの種類に応じて治療の方法、治療薬の種類、患者さんのその後の経過が違ってくるからです。近年では患者さんごとに最適な治療をめざす、テーラーメイド医療を行う上でも病理検査は欠かせないものになっています。

病理医はご遺族の同意を得たうえで、亡くなった患者さんの病理解剖も行います。患者さんがお亡くなりになった原因を顕微鏡で調べて、生前の医療が適切であったかどうかを評価し今後の診療に役立てるためです。病理解剖は医療の質の向上のために大変重要と考えられており、当院では病理診断科と臨床各科が協力して、病理解剖をおこなった症例の検討会を定期的に実施しています。

病理医は患者さんと直接お会いすることはありませんが、このように患者さんの診療に深くかかわっています。当院では病理医1名と臨床検査技師6名が病理検査にたずさわっており、迅速で正確な病理診断をめざして日々努力しています。どうぞ安心してご受診ください。

病理診断科 部長  
樋口佳代子



### 院内売店向かいに 設置した自販機の紹介

すでに利用された方もいらっしゃるかもしれませんが、売店向かいに大型自動販売機を設置しました。

以前から、「売店が閉まった時間帯に飲食物やオムツ、生理用品の購入ができるようにしてほしい」という要望が多く聞かれました。要望の内容を精査しながら、看護部門・医事課職員・自動販売機の運営会社との検討を繰り返し今回、特殊自動販売機の導入となりました。

自動販売機には飲料製品だけではなく、クリーム玄米ブランやゼリーなどの簡易食品のほかに子供用おむつや除菌シート、生理用品などの衛生用品も購入できるようになりました。取り扱う商品については、要望を確認しながら調整していきたいと思っております。

今後も皆様の声を聞きながらサービス向上への取り組みを進めていきたいと考えています。

事務管理部 次長 屋良 樹一



### カビ落とし作業(職員vsカビ)

8月1日～6日まで沖縄本島を直撃した台風6号(カーヌン)が去った後の翌週、院内の広範囲で多くのカビが確認されました。また、一部のエリアでは室外機の故障による影響も重なり予想以上にカビが急速に増殖しました。

カビの発生については、例年梅雨時期に一部確認される程度でしたが、今回のようなカビの増殖は初めての経験となりました。

カビが発生する場所は人間の生活圏とほぼ同じであること、カビが好む条件として

- ①室温20℃～30℃(季節を問わず好む温度)
- ②湿度70%以上(湿度が上がるほどに繁殖のスピードも上がる)
- ③ホコリや垢を栄養素としている(有機物以外でも栄養素に変えてしまう)
- ④空気(人間と同じで酸素が必要)が揃うことで増殖していきます。

カビを放置することで私たちに与える影響としては皮膚の痒みや咳、鼻水、喉の痛み、呼吸のトラブル等の症状がみられると言われています。

カビ落とし作業は時間と労力を使いますが、キレイにしても一時的で「新たなカビを見てガッカリの繰り返し」となります。ガッカリしている間にカビ落としを放置、先延ばしにする事でみるみる増殖していきますので、落ち込む暇は全くありませんでした。

職員や病院利用者に症状が出ないよう緊急対策を取り8月19日～9月末までの1ヵ月半の予定で対応するプランを早急に立てカビ落とし作業を行い、9月23日で確認されたすべてのエリアのカビを落とし、「職員VSカビ」の決着をつけ、キレイに終わることができました。職員の働きやすい環境はもちろん、病院利用者が安心して受診できるよう今後も「職員VSカビ」の戦いに備えたいと考えています。

総務課長 安座間 太一

作業前



作業後



### 部署紹介

#### ⑱ 総務課

総務課は合計17名の職員が在籍しています。

庶務、給与処理、電話交換、院内駐車場管理・誘導、職員駐車場管理、送迎車両運転や救急搬送対応など多彩な業務を行っています。病院内外の設備管理等を施設委託業者に依頼し、最近では病院内カビ落としや清掃作業を清掃委託業者と協力しながら対応しています。組合員をはじめ患者さんが利用しやすい環境となるよう日々工夫を重ねながら職員一丸となって改善に努めています。

今後も病院運営・利用に支障が出ないよう職員一同、更なるレベルアップを目指していく決意であります。今後ともよろしくお願ひします。

総務課長 安座間 太一

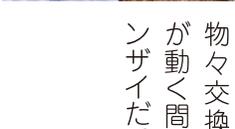
### 委員会活動報告 17.糖尿病教育研究委員会

糖尿病は高血圧に次いで日本人に多い疾患であり、60歳を超えると5～6人にひとりには糖尿病があると言われています。どの診療科でも、関わる機会が多いので、医師をはじめ多くの職種、そして病棟や医事課、協同にじクリニックなど多くの部署からスタッフが参加しています。

糖尿病教育研究委員会では、糖尿病をもつ方へよりよい支援ができるように、スタッフの知識・技術の向上を目標に活動しています。

よろしくお願ひします。

糖尿病看護認定看護師 前場 真由美



政府は2030年までに食料自給率を45%にするという目標を立てているが、具体的な計画は見えない。私の食料自給率は80%以上だ。野菜は十分すぎる程あるし、飲食品は物々交換で足りる。体が動く間は自給自足バンザイだ。

ハルサー  
金城 稲子

近年の異常気象は世界中で干ばつ、洪水、火災等を起こしている。さらに戦争で農地が消滅し、食料の流通にも影響が出ている。輸出国の食料生産量が大幅に減少すれば当然自国民を優先して禁輸措置をとることになる。そうなれば極端だが6割強の日本国民が飢えることになる。飢えることはないにしても価格高騰は避けられない。実際、輸入飼料に頼る酪農は輸出国の事情により価格高騰し、ウクライナ危機は東欧産海産物の空輸に支障をきたし、回転寿司店等で影響が出ている。

さて、世界の食料自給率を見るとカナダ255%、豪州233%、米131%、仏130%、独95%、英68%に対し、日本はわずか38%である。

台風6号で全ての葉が飛ばされ枝だけになった庭の木々はわずか1週間で芽が出てきた。泥まみれになっていたゴーヤーとナーベラーも脇芽を出した。ハルサーがまだチルダイして損害のサンミンをしている時に...。植物の生命力には頭が下がる。

働は老体を思い知らされる。台風や病気には逆らえないので心配は尽きない。11月後半からは収穫が始まり、一日置きの収穫が5月まで続く。うんざりはするが、ハルサーという労働は何ものにも代え難い。

### ハルサー だより ⑱

#### トマト栽培開始

喜びと苦労と心配のトマト栽培が9月20日にスタートした。「喜び」は成長や収穫、「苦労」は1,400本の苗の植え付けや荷運び、「心配」は台風や病気などだ。60代前半は喜びが大きかったが70才を目前にしての労働は老体を思い知らされる。台風や病気には逆らえないので心配は尽きない。11月後半からは収穫が始まり、一日置き